

# 皮膚科学

## 1 構成員

	平成15年3月31日現在
教授	1人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	1人（1人）
助手（うち病院籍）	4人（2人）
医員	1人
研修医	3人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	5人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	1人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	18人

## 2 教官の異動状況

- 瀧川 雅浩（教授）（H2. 10. 16～現職）  
 戸倉 新樹（助教授）（H14. 10. 31～医学部助教授 H14. 11. 1～産業医科大学教授）  
 橋爪 秀夫（助教授）（H14. 12. 31～医学部附属病院講師 H15. 2. 1～医学部助教授）  
 八木 宏明（講師）（H13. 1. 1～現職）  
 瀬尾 尚宏（助手）（H7. 7. 1～現職）  
 伊藤 泰介（助手）（H14. 1. 31より海外研修）  
 東芝 輝臣（助手）（H13. 3. 31 藤枝市立総合病院医師 H14. 4. 1～医学部附属病院助手）  
 津嶋 友央（助手）（H14. 12. 31 医学部助手 H15. 1. 1～医学部附属病院医員）  
 高城 倫子（助手）（H14. 12. 31 医学部附属病院助手 H15. 1. 1～国立駿河療養所）  
 大島 昭博（助手）（H14. 12. 31 沼津市立病院医師 H15. 1. 1～医学部助手）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成14年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	14編（5編）
そのインパクトファクターの合計	28.23
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	11編（10編）
そのインパクトファクターの合計	0.00

(4) 著書数 (うち邦文のもの)	18編 ( 18編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	6編 ( 3編)
そのインパクトファクターの合計	3.25

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 瀧川雅浩, 橋爪秀夫, 八木宏明, 大島昭博, 高瀬麻衣子, 松本賢太郎, 鈴木陽子, 秦 まき, 石川 学: 掻痒を伴う皮膚疾患患者に対するエバステル (一般名: エバステン) の長期投与試験. 臨床医薬 19 (3): 283-287, 2003.
2. Hashizume H., Takigawa M., Tokura Y. : Characterization of drug-specific T cells in phenobarbital induced eruption. J Immunol 168: 5359-5368, 2002.
3. Ito T., Seo N., Yagi H., Ohtani T., Tokura Y., Takigawa M., Furukawa F. : Unique therapeutic effects of the Japanese-Chinese herbal medicine, Sairei-to, on Th1/ Th2 cytokines balance of the autoimmunity of MRL/lpr mice. J Dermatol Sci 28: 198-210, 2002.
4. Tokura Y., Seo N., Tomida M., Sarukawa M., Hashizume H., Takigawa M., Moriwaki S. : Augmentation of monocyte interleukin-8 production by psoralen/UVA-treated CD4+T cells. Exp Dermatol 11: 564-572, 2002.
5. 瀧川雅浩, 古川福実, 今泉俊資, 田中 信, 五十嵐晴巳, 古川富紀子, 小粥雅明, 橋爪秀夫, 佐地良文, 勝俣道夫, 富田浩一, 須藤晴美, 杉浦 丹, 坂本泰子, 堀口大輔, 浦野聖子, 田中一匡: アトピー性皮膚炎に対する塩酸エピナスチンの有用性. 新薬と臨 51 (5): 447-457, 2002.

インパクトファクターの小計 [10.35]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Matsuda H., Suda T., Hashizume H., Yokomura K., Asada K., Suzuki K., Chida K., Nakamura H. : Alteration of balance between myeloid dendritic cells and plasmacytoid dendritic cells in peripheral blood of patients with asthma. Am J Respir Crit Care Med 166 (8): 1050-1054, 2002.

インパクトファクターの小計 [5.95]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. Adachi A., Horikawa T., Kunisada M., Hayashi K., Ohshima K., Matsuoka H., Tokura Y. : Hypersensitivity to mosquito bites in association with chronic Epstein-Barr virus infection and natural killer (NK) cell leukaemia/lymphoma with expansion of NK cells expressing a low level of CD56. Br J Dermatol 147: 1036-1037, 2002.
2. Hata M., Tokura Y., Takigawa M., Sato M., Shioya Y., Fujikura Y., Imokawa G. : Assessment of epidermal barrier function by photoacoustic spectrometry in relation to its importance in the pathogenesis of atopic dermatitis. Lab Invest 82 (11): 1451-1461, 2002.

3. Baron E. D., Barzilai D., Johnston G., Kawashima M., Takigawa M., Nakagawa H., Graham-Brown R. A. C., Stevens S. R. : *Epidemiology and health services research* Atopic dermatitis management: comparing the treatment patterns of dermatologists in Japan, U.S.A. and U. K. Br. J Dermatol 147: 710-715, 2002.
4. 鈴木健司, 白井滋子, 伊東武志, 森田 浩, 中村浩淑, 瀧川雅浩: 糖尿病患者における足白癬の罹患率. 臨床皮膚科 56 (11): 989-992, 2002.
5. Tokuriki A., Seo N., Ito T., Kumakiri M., Takigawa M., Tokura Y. : Dominant expression of CXCR3 is associated with induced expression of IP-10 at hapten-challenged sites of murine contact hypersensitivity: a possible role for interferon- $\gamma$ -producing CD8+ T cells in IP-10 expression. J Dermatol Sci 28: 234-241, 2002.
6. Yagi S., Iwanaga T., Kojima H., Shoji Y., Suzuki S., Seno K., Mori H., Tokura Y., Takigawa M., Moriwaki S. : UV dose measurements of photosensitive dermatosis patients by polycrystalline GaN-based portable self-data-acquisition UV monitor. Photochem Photobiol 76 (6): 669-671, 2002.
7. 川島 眞, 久木田 淳, 原田昭太郎, 中川秀己, 瀧川雅浩, 山本昇壮, 中島光好: 持続性選択ヒスタミンH1受容体拮抗薬SCH29851 (ロラタジン) の慢性蕁麻疹に対する第Ⅲ相二重盲検比較試験-SCH29851 10mgの低用量 (1mgOD) に対する優越性およびフマル酸ケトチフェン1mgBIHに対する非劣性の検討-. 臨床医薬 18 (7): 881-905, 2002.
8. 川島 眞, 新村真人, 本田まりこ, 漆畑 修, 島田眞路, 瀧川雅浩, 宮地良樹, 山西弘一, 中島光好: 塩酸バラシクロビル錠の単純疱疹に対する第Ⅲ相臨床試験-アシクロビル錠を対照とした二重盲検比較試験-. 臨床医薬18 (10): 1155-1175, 2002.

インパクトファクターの小計 [11.93]

## (2) 論文形式のプロシーディングズ

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

## (3) 総 説

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
  1. Takigawa M. : Histamine and cutaneous allergy: old friend, new player. J Dermatol 29 (5): 263-266, 2002.
  2. 橋爪秀夫: 伝染性膿痂疹. Visual Dermatol. 1 (8): 862-863, 2002.
  3. 橋爪秀夫: アトピー性皮膚炎と樹状細胞. アレルギー科 13 (6): 536-542, 2002.
  4. 橋爪秀夫: STAIによる不安度とアトピー性皮膚炎活動性パラメーター. MB Derma 58: 53-

56, 2002.

5. 瀧川雅浩：生まれ月と栄養から。日小皮会誌21: 87-89, 2002.
6. 瀧川雅浩：皮膚リンパ腫－近年の国際的研究動向－。血免疫腫瘍7: 113-116, 2002.
7. 橋爪秀夫：皮膚T細胞リンパ腫 (CTCL) の病態と病因。MB Derma 71: 8-14, 2003.
8. 川島 真, 宮地良樹, 中川秀己, 飯塚 一, 伊藤雅章, 塩原哲夫, 島田眞路, 瀧川雅浩, 竹原和彦, 橋本公二, 古江増隆：アトピー性皮膚炎の診療に対する患者の認識についてのアンケート調査（第2報）。臨皮56 (4): 304-312, 2002.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 森脇真一, 星野優子, 山田知加, 高城倫子, 田中秀生：皮膚腫瘍に対するALA外用PDTの実際。臨皮56 (5): 112-117, 2002.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 松本賢太郎, 戸倉新樹, 瀧川雅浩：レプチンとアレルギー－アトピー性皮膚炎との関連を中心に。アレルギー科13 (3): 247-251, 2002.
2. 松本賢太郎, 瀧川雅浩：皮膚科領域におけるストレスマネジメント－アトピー性皮膚炎を中心に－。MB Derma 58: 49-52, 2002.

インパクトファクターの小計 [0.00]

#### (4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 橋爪秀夫：Sjögren症候群。新村真人, 瀧川雅浩（編）皮膚疾患最新の治療2003-2004 南江堂 62-63, 2002.
2. 橋爪秀夫：汎発性発疹性組織球腫。組織球症X（Langerhans細胞組織球症）。玉置邦彦（総編集）最新皮膚科学大系 神経系腫瘍・間葉系腫瘍中山書店 238-239, 244-248, 2002.
3. 橋爪秀夫：川崎病。宮地良樹, 古川福実（編）皮膚疾患診療実践ガイド 文光堂 371-372, 2002.
4. 橋爪秀夫：ジベルばら色秕糠疹。宮地良樹, 古川福実（編）皮膚疾患診療実践ガイド 文光堂460-461, 2002.
5. 橋爪秀夫：医療文書の書き方。宮地良樹, 古川福実（編）皮膚疾患診療実践ガイド 文光堂 716-720, 2002.
6. 大島昭博：遺伝性掌蹠角化症。新村真人, 瀧川雅浩（編）皮膚疾患最新の治療2003-2004 南江堂 115, 2002.
7. 瀧川雅浩：シラミ症。新村真人, 瀧川雅浩（編）皮膚疾患最新の治療2003-2004 南江堂169, 2002.

8. 瀧川雅浩：抗アレルギー薬。新村真人，瀧川雅浩（編）皮膚疾患最新の治療2003-2004 南江堂223-224, 2002.
9. 瀧川雅浩：皮膚T細胞リンパ腫。玉置邦彦（総編集）最新皮膚科学大系13 中山書店 257-263, 2002.
10. 瀧川雅浩：アトピー性皮膚炎。亀山正邦，高久史磨（総編集）今日の診断指針 医学書院 5版1411-1413, 2002.
11. 戸倉新樹：CD30+皮膚未分化大細胞型リンパ腫。日本皮膚悪性腫瘍学会（編）皮膚悪性腫瘍取扱い規約 金原出版122-127, 2002.
12. 戸倉新樹：パッチテスト，光テスト，光パッチテスト，皮膚科の治療。瀧川雅浩，白濱茂穂（編）皮膚科エキスパートニング 南江堂 23-25, 28-33, 2002.
13. 戸倉新樹：感染免疫と皮膚疾患。西岡 清（編）やさしい皮膚免疫学 医薬ジャーナル社 230-240, 2002.
14. 戸倉新樹：Photopheresis. 田上八朗，宮地良樹，瀧川雅浩（編）機器を用いたスキンクリニック 文光堂 258, 2002.
15. 戸倉新樹：多形滲出性紅斑, Stevens-Johnson症候群。宮地良樹，古川福実（編）皮膚疾患診療実践ガイド 文光堂 278-280, 280-282, 2002.
16. 戸倉新樹：光線過敏型薬疹，白斑黒皮症（薬剤性），皮膚良性リンパ腺腫症，Langerhans細胞組織球症，内臓悪性腫瘍と皮膚病変。斎田俊明，塩原哲夫，宮地良樹，渡辺晋一（編）今日の皮膚疾患治療指針 医学書院 408-409, 435-436, 521, 532-533, 675-677: 2002.
17. 八木宏明：皮膚  $\gamma\delta$  T 細胞リンパ腫。玉置邦彦（総編集）神経系腫瘍，間葉系腫瘍中山書店 287-290, 2002.
18. 八木宏明：指趾粘液囊腫，若年性黄色肉芽腫，皮膚良性リンパ腺腫症。宮地良樹，古川福実（編）皮膚疾患診療実践ガイド 文光堂 586-587, 587-588, 588-589, 2002.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

## (5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. Inuzuka M., Tokura Y. : Sterile suppurative folliculitis associated with acute myeloblastic leukaemia. Br J Dermatol 146: 904-907, 2002.

2. Suzuki K., Konishi N., Tokura Y., Takigawa M. : Telangiectasia macularis eruptiva perstans in polycythemia rubra vera. Eur J Dermatol 12 (2): 201-203, 2002.
3. Koide M., Shirahama S., Tokura Y., Takigawa M., Hayakawa M., Furukawa F. : Lupus erythematosus associated with C1 inhibitor deficiency. J Dermatol 29 (8): 503-507, 2002.
4. 小西紀子, 鈴木健司, 戸倉新樹 : 高齢者に多発したSubepidermal calcified noduleの1例. 皮膚臨床44 (7): 820-821, 2002.
5. 堀部尚弘, 伊藤泰介, 八木宏明, 橋爪秀夫, 戸倉新樹, 瀧川雅浩, 富田浩一 : 菌状息肉症の親子発症例. 皮膚のリンフォーマXXI 50-53, 2002.
6. 堀部尚弘, 伊藤泰介, 橋爪秀夫, 戸倉新樹, 瀧川雅浩 : 治療抵抗性を示した菌状息肉症 若年発症し治療抵抗性を示した菌状息肉症の1例. Skin Cancer 17 (2): 157-160, 2002.

インパクトファクターの小計 [3.25]

#### 4 特許等の出願状況

	平成14年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

取得済み特許

1. 特許 : No. 98-109-0723 (UK, France, Bergium, Spain, Germany, Switzerland, Italy, Netherlands) キラーT細胞賦活剤及びその用途 瀧川雅浩, 瀬尾尚宏
2. 特願平9-130031 キラーT細胞賦活剤 瀧川雅浩, 瀬尾尚宏
3. 特願平7-264582 痒疹治療剤 瀧川雅浩, 戸倉新樹
4. 特願昭58-237326 皮膚疾患治療用テープ製剤 瀧川雅浩ら
5. No. 2238661 (Canada) キラーT細胞賦活剤及びその用途 瀧川雅浩, 瀬尾尚宏

#### 5 医学研究費取得状況

	平成14年度
(1) 文部科学省科学研究費	5件 (1,680万円)
(2) 厚生科学研究費	2件 ( 520万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 ( 万円)
(4) 財団助成金	0件 ( 万円)
(5) 受託研究または共同研究	1件 ( 135万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	23件 (2,420万円)

##### (1) 文部科学省科学研究費

- 瀧川雅浩 (代表者) 基盤研究 (B) (2) 「経皮的がんワクチン法のヒトがん治療への応用に関する研究」 490万円 (継続)
- 戸倉新樹 (代表者) 基盤研究 (C) (2) 「薬剤性光線過敏症の分子免疫機構と薬剤の光アレルギー能のスクリーニング」 210万円 (新規)
- 八木宏明 (代表者) 基盤研究 (C) (2) 「悪性黒色腫細胞におけるシグナル伝達系を介した走化と細胞接着の誘導, 抑制の検討」 180万円 (継続)

- 瀬尾尚宏（代表者）若手研究（A）「抑制系免疫反応除去に注目した近未来的メラノーマ免疫治療法の基礎構築」直接経費630万円 間接経費189万円（新規）
- 津嶋友央（代表者）若手研究（B）「ケラチノサイトの血管新生因子産生に対する免疫抑制剤の影響」170万円（新規）

(2) 厚生科学研究費

- 瀧川雅浩（分担者）厚生労働省厚生科学研究費感覚器障害及び免疫・アレルギー等研究事業「アトピー性皮膚炎の病因病態の解明及び新治療法の開発に関する研究」500万円（継続）代表者 東京医科歯科大学大学院環境皮膚免疫学分野 西岡 清
- 瀧川雅浩（分担者）厚生労働省がん研究助成金「新しい技術を導入した悪性黒色腫の診断と治療法の確立に関する研究」20万円（継続）代表者 国立がんセンター中央病院皮膚科 山本明史

(5) 受託研究または共同研究

- 瀧川雅浩（代表者）久光製薬株式会社 筑波研究所 「ケトプロフェンの光線過敏症メカニズム解明に関する研究」135万円

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	10件	1件
(2) シンポジウム発表数	3件	1件
(3) 学会座長回数	0件	12件
(4) 学会開催回数	5件	4件
(5) 学会役員等回数	0件	17件
(6) 一般演題発表数	0件	

(1) 国際会議等開催・参加：

1) 国際学会・会議等の開催

Takigawa M 会長

International Society for Cutaneous Lymphomas (New Orleans, USA)

2月 10名

Takigawa M 運営委員

Vichy Research Lab. Scientific committee meeting (Paris, France)

6月 10名

Takigawa M 運営委員

20th World Congress of Dermatology (Paris, France)

企画委員 Course: Allergology

6-7月 100名

Takigawa M 運営委員

Berlex Lab. Scientific committee (Paris, France)

7月 10名

Takigawa M 運営委員

Vichy Research Lab. Scientific committee meeting (Praha, Czecho)

10月 10名

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

Takigawa M: From mosquito hypersensitivity to NK cell.

International Symposium of Cutaneous Lymphomas Berlin (Germany) 1月

Takigawa M: Presidential Address

International Society for Cutaneous Lymphomas New Orleans (USA) 2月

Takigawa M: Dry Skin

Vichy Research Lab. Scientific committee meeting Paris (France) 6月

Takigawa M: Topical immunomodulator treatment in atopic dermatitis.

Berlex Lab. Scientific committee meeting Paris (France) 7月

Takigawa M: Adult T Cell Lymphoma

20th World Congress of Dermatology Paris (France) 6-7月

Takigawa M: Allergology: An Overview

20th World Congress of Dermatology Paris (France) 6-7月

Takigawa M: Lymphomas: HTLV-1 Associated Lymphoma

20th World Congress of Dermatology Paris (France) 6-7月

Takigawa M: Experimental therapies for skin cancer: Epicutaneous Vaccination

20th World Congress of Dermatology Paris (France) 6-7月

Takigawa M: New developments in vaccination for melanoma & other Tumors:

Percutaneous peptide immunization (A novel approach for DC-based immunotherapy)

20th World Congress of Dermatology Paris (France) 6-7月

Takigawa M: Dry Skin

Vichy Research Lab. Scientific committee meeting Praha (Czecho) 10月

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

戸倉新樹 Drug photoallergy

1st Asian Photobiology Conference

淡路島 (日本) 6月

八木宏明 Functional characterization of a malignant T-cell line

derived from a patient with CD8+ sezary syndrome:



regulation of apoptosis, CXCR3 and cytotoxic molecules.

20th World Congress of Dermatology Paris (France) 7月

八木宏明 Simultaneous expression of CLA, CXCR3 and CD45RA on  
epidermal malignant T cells in disseminated pagetoid reticulosis.  
20<sup>th</sup> World Congress of Dermatology Paris (France) 7月

(2) 国内学会の開催・参加

1) 学会における特別講演・招待講演

橋爪秀夫, 戸倉新樹, 瀧川雅浩: アトピー性皮膚炎におけるストレスの影響. 第101回日本皮膚  
科学会総会2002年6月 熊本市

2) シンポジウム発表

橋爪秀夫, 戸倉新樹, 瀧川雅浩: アトピー性皮膚炎における末梢血樹状細胞. 第13回日本樹状細  
胞研究会2002年7月 岡山市

3) 座長をした学会名

瀧川雅浩: 第101回日本皮膚科学会総会・学術大会 2002. 6 熊本市

瀧川雅浩: 第18回皮膚悪性腫瘍学会 2002. 6 米子市

瀧川雅浩: 第32回日本皮膚アレルギー学会 2002. 7 大阪市

瀧川雅浩: 第27回日本研究皮膚科学会 2002. 8 京都市

瀧川雅浩: 第66回日本皮膚科学会東部支部学術大会 2002. 10 つくば市

戸倉新樹: 第101回日本皮膚科学会総会・学術大会 2002. 6 熊本市

戸倉新樹: 第27回日本研究皮膚科学会 2002. 8 京都市

戸倉新樹: 第66回日本皮膚科学会東部支部学術大会 2002. 10 つくば市

戸倉新樹: 第72回日本皮膚科学会静岡地方会 2002. 2 浜松市

橋爪秀夫: 第66回日本皮膚科学会東部支部学術大会 2002. 10 つくば市

橋爪秀夫: 第74回日本皮膚科学会静岡地方会 2002. 10 三島市

八木宏明: 第18回皮膚悪性腫瘍学会 2002. 6 米子市

4) 主催する学会名

第73回日本皮膚科学会静岡地方会 2002. 6 静岡市

第27回日本研究皮膚科学会 2002. 8 京都市

第74回日本皮膚科学会静岡地方会 2002. 10 三島市

第75回日本皮膚科学会静岡地方会 2003. 2 浜松市

5) 役職についている学会名とその役割

瀧川雅浩 世界皮膚リンフォーマ学会 理事長

瀧川雅浩 日本皮膚科学会 理事

瀧川雅浩 日本研究皮膚科学会 理事  
 瀧川雅浩 日本皮膚悪性腫瘍学会 理事  
 瀧川雅浩 皮膚リンフォーマ研究学会 代表世話人  
 瀧川雅浩 日本皮膚アレルギー学会 理事長  
 瀧川雅浩 日本乾癬学会 理事  
 瀧川雅浩 日本アレルギー学会 評議員  
 戸倉新樹 日本皮膚科学会 代議員  
 戸倉新樹 日本研究皮膚科学会 評議員  
 戸倉新樹 日本皮膚悪性腫瘍学会 評議員  
 戸倉新樹 日本皮膚アレルギー学会 評議員  
 橋爪秀夫 日本皮膚科学会 代議員  
 橋爪秀夫 日本研究皮膚科学会 評議員  
 八木宏明 日本研究皮膚科学会 評議員  
 瀬尾尚宏 日本研究皮膚科学会 評議員  
 瀬尾尚宏 和歌山県立医科大学 非常勤講師

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	3件	3件

### (1) 国内の英文雑誌の編集

瀧川雅浩：Journal of Dermatological Science, Editorial Board, IF 1.2  
 瀧川雅浩：Journal of Dermatology, Editorial Board  
 戸倉新樹：Journal of Dermatological Science, Associated Editor, IF 1.2

### (2) 外国の学術雑誌の編集

瀧川雅浩：Journal of Investigative Dermatology (USA), Editorial Board  
 瀧川雅浩：Acta Dermato-Venereologica (Stockholm), Editorial Board  
 瀧川雅浩：Experimental Dermatology (UK), Editorial Board

### (3) 国内外の英文雑誌のレフリー

瀧川雅浩：Acta Dermato-Venereologica (Stockholm) (Sweden) 3回  
           Experimental Dermatology (UK) 2回  
           Journal of Dermatological Science (日本) 1回  
 戸倉新樹：Journal of Dermatological Science (日本) 6回  
           Journal of Dermatology (日本) 2回  
 橋爪秀夫：Journal of Dermatology (日本) 1回  
           Journal of Dermatological Science (日本) 1回

## 9 共同研究の実施状況

	平成14年度
(1) 国際共同研究	1件
(2) 国内共同研究	1件
(3) 学内共同研究	0件

### (1) 国際共同研究

毛周期と皮膚免疫の関連に関する研究（ハンブルグ大学：ドイツ）1997－現在  
研究方法，試料についての情報交換，研究者（伊藤泰介）の派遣

- 1) Hofmann U., Tokura Y., Ruckert R., Paus Ralf: The anagen hair cycle induces systemic immunosuppression of contact hypersensitivity in mice. Cell. Immunol. 184: 65-73, 1998.
- 2) Muller-Rover S., Tokura Y., Welker P., Furukawa F., Wakita H., Takigawa M., et al. : E- and P-cadherin expression during murine hair follicle morphogenesis and cycling. Exp. Dermatol. 8: 237-246, 1999.
- 3) Hideo Hashizume, Yoshiki Tokura, Masahiro Takigawa, Ralf Paus: Hair cycle-dependent expression of heat shock proteins in hair follicle epithelium. International Journal of Dermatology 36: 587-592, 1997.

### (2) 国内共同研究

田川 進（大阪市立大学 血液内科 助教授），大島孝一（福岡大学 第一病理 助教授）蚊アレルギーに伴うEBウイルス関連NK細胞白血病についての研究

## 10 産学共同研究

	平成14年度
産学共同研究	3件

1. 日東電工：腫瘍関連抗原を用いた経皮的癌免疫療法を目的とするキラーT細胞賦活剤（テープ剤）の開発
2. 鐘紡：光線過敏症患者におけるDNA修復関連遺伝子のSNPs解析
3. 地域イノベーション促進研究開発事業：人間のからだに優しい高機能性医用材料および環境適応型新規な医農薬活性物質の研究開発

## 11 受賞

戸倉新樹 客員教授

1999 Yale University School of Medicine, Department of Dermatology（USA）

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 1. 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

#### 1. 薬剤アレルギー患者における薬剤反応性T細胞の特性の解析 橋爪秀夫

薬剤アレルギーを含む薬剤の副作用は現代医療の問題点とされつつも、その発症機序はいまだ不明であり、これに関する研究もあまりにも少ない。本研究は、免疫学手法を用いてその機序を明らかにすることを目的とした。抗痙攣剤であるフェノバルビタールは、他方高頻度に薬剤アレルギーをおこす。我々は、フェノバルビタール過敏症の複数患者の末梢単核球を採取し、薬剤反応性T細胞クローン (TCC) を樹立した。TCCは患者間でそのV $\beta$ の使用は様々であったが、HLAの異なる患者であっても、V $\beta$  13.1およびV $\beta$  5.1を発現するTCCの樹立頻度が高かった。V $\beta$  5.1+CD8+細胞は表皮壊死と関連していた。V $\beta$  13.1+CD4+TCCは、薬剤刺激反応において抗原提示細胞のプロセッシングを必要としなかった。殆どのTCCはTh2サイトカインを産生していたが、少数のTh1サイトカイン産生TCCも存在した。これらの結果より、ある共通した反応経路は存在するが、患者各々に、薬剤反応性T細胞のフェノタイプ、V $\beta$  レパートリー、抗原認識機構、サイトカイン産生は異なっており、個々の反応T細胞が皮疹の臨床型を形作っていると考えられた。薬剤反応性T細胞の特性を解析することによって、より詳細な薬剤アレルギーの機序の解明が進むと考えられる。このことによって、薬剤アレルギーの有効な治療手段を確立できる可能性があるだけでなく、薬剤アレルギーの予防手段や、薬剤アレルギーをおこす可能性のある患者を予測できる可能性があり、効率的な薬物療法が可能となると思われる。

### 2. アトピー性皮膚炎における末梢血樹状細胞に関する研究

#### 橋爪秀夫, 瀧川雅浩

professionalな抗原提示細胞は、表皮LC以外にも様々な臓器に局在し、総称して樹状細胞 (DC) と呼んでいる。近年、その分化の様式に従い、幹細胞からmyeloid lineageを経て分化するmyeloid DCと、lymphoid lineageを経て分化し、形態的に形質細胞に類似するplasmacytoid DCとが存在することが明らかとなった。加えて、その機能においても、前者がTh1細胞の分化誘導に働くのに対し、未熟plasmacytoid DCは、type-1 interferonを産生してウイルス感染防御や調節性T細胞の分化に対して働き、また成熟plasmacytoid DCはTh2細胞に働いてTh2サイトカイン環境を提供することが判明した。我々は、末梢血DCがアトピー性皮膚炎の病態に関与する可能性を考え、健常人およびアトピー性皮膚炎患者において検討した。末梢白血球中のDCの割合および数は、正常人 ( $0.36 \pm 0.18\%$ ,  $17.8 \pm 9.0/\mu\text{l}$ ) と比較してAD群 ( $0.53 \pm 0.3\%$ ,  $34.1 \pm 22.0/\mu\text{l}$ ) は若干多い傾向があった。DC1は、ADで $0.49 \pm 0.49\%$ ,  $25.9 \pm 17.3/\mu\text{l}$ また正常人で $0.29 \pm 0.16\%$ ,  $14.5 \pm 7.9/\mu\text{l}$ でAD群の方が多かった。一方、ADではDC2が $0.15 \pm 0.20\%$ ,  $8.2 \pm 6.3/\mu\text{l}$ で正常人の $0.065 \pm 0.046\%$ ,  $3.3 \pm 2.2/\mu\text{l}$ に比べ2倍以上多かった。ADにおけるDC2優位はDC1/DC2比を比較すると、より明らかであった。ADにおけるDC1/DC2比は $3.76 \pm 1.99$ で正常人の $7.90 \pm 7.47$ に比べ有意に低かった。さらに、正常人の比は1.5から27と非常に幅が広いのに対し、ADではDC1/DC2比は0.7~10.6と狭い範囲にあった。したがって、ADにおける低DC1/DC2比は末梢血中の相対的なDC2の増加による影響が大きいと考えられた。DC1/DC2比と血清総IgE値は逆相関した ( $y = 6.71 - 0.87x$ ,  $R^2 = 0.19$ ,  $p < 0.017$ )。Th1/Th2比とDC1/DC2との関連を調べると、正の相関があった。これらの結果から、AD

患者の低DC1/DC2は、そのTh2優位性と強く関連することが示唆された。さらに、AD患者の重症度とDCとの関連を調べるため、ADの重症度として、SCORAD indexを用い、病勢をスコア化して、DCとの関連を検討したところ、ADの病勢とDC1/DC2比とは、正の相関を示した。これらの結果より、ADのTh2優位性は、末梢DC1/DC2の不均衡と関連があると考えられた。

### 13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

### 14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

### 15 新聞，雑誌等による報道

1. 高城倫子：スキンケアを大切に。びふれ浜松 2002. 10
2. アトピー治療に「教育入院」効果。静岡新聞 2002. 12